

令和 4 年

Y 8 サミット創快横手市議会

政策提案

令和4年Y8サミット創快横手市議会 政策提案目次

- (1) Y8提案第1号 農業振興による地域の活性化について
(横手南中学校からの提案) 1 ページ
- (2) Y8提案第2号 旧十文字第一小学校と周辺エリアの利活用について
(十文字中学校からの提案) 2 ページ
- (3) Y8提案第3号 横手を健康寿命県内ナンバー1にするための政策について
(横手北中学校からの提案) 3 ページ
- (4) Y8提案第4号 ふるさと納税返礼品を使った横手のPRと観光優待について
(横手明峰中学校からの提案) 4 ページ
- (5) Y8提案第5号 若年層の流出防止を目指す天下森リゾート計画について
(増田中学校からの提案) 5 ページ
- (6) Y8提案第6号 「横手の魅力を伝えるストーリーコンテスト」の設立について
(横手清陵学院中学校からの提案) 6 ページ
- (7) Y8提案第7号 職業体験マッチングアプリの開発について
(平鹿中学校からの提案) 7 ページ

Y 8 提案第 1 号

農業振興による地域の活性化について

横手南中学校から次のとおり政策提案する。

令和 4 年 1 1 月 1 0 日 提出

横手市中学校 Y 8 サミット



横手南中学校

〔提案説明者〕

12 番 ふじわらはるき 藤原遙希 議員、13 番 ほりかわそうたろう 堀川創太郎 議員、14 番 こまつださわ 小松田沙和 議員

〔提案要旨〕

農業振興による地域の活性化について提案する。世界情勢を見ると最後の砦になるのは食であるが、食事が当たり前のように保障され、資源に恵まれていることに気付かず、いたことから、横手の豊かな資源を生み出している農業にスポットを当てることが重要と考えた。農業に誇りを持った若い世代が受け継ぎ、資源を守り、豊かな食生活を送ることで、安心して移住や子育てができると考え、次の 3 点を提案する。

1. 中学生の職場体験や高校生のインターンシップに農業に関する分野を増やす

職場体験先は主に工業、商業やサービス業などだが、農業も選択できれば職業選択の一つとして考えることができる。どの学区でも体験先を見つけられるシステムをつくり、職業としての農業に触れる機会を広げることで、農業に対する視野を広げ、魅力に気付くことが期待でき、食の大切さを改めて実感することにもつながる。

2. 県外などからの農業ボランティアの募集

作業内容、時期など、ボランティアの希望と農家のニーズをつなぐことにより、農繁期における人手不足を補い、農業や横手に関心を持つきっかけになる。また、閉校した学校を活用し、教室を宿泊施設に改装して提供することで、気軽にボランティアに参加してもらえることが期待できる。

3. 横手産農産物のブランド化の推進

観光客に農産物の収穫体験を実施し、それらを調理し提供できる店舗を増やすことで横手産農産物の付加価値を高める。また、いぶりがっこを高級ワインやチーズと食することを推奨するなど、横手産農産物と相性のよい食品のセットによるブランド化を目指し、それをアンテナショップなどでも PR し、知名度を高める。さらに、世界的に価格高騰が続く小麦栽培に取り組み、「横手産小麦」のブランド化を目指すなど、米だけに頼らない新たな作物の栽培に取り組むことも必要と考える。

Y 8 提案第 2 号

旧十文字第一小学校と周辺エリアの利活用について

十文字中学校から次のとおり政策提案する。

令和 4 年 1 1 月 1 0 日 提出

横手市中学校 Y 8 サミット



十文字中学校

〔提案説明者〕

18 番 こまつたかひろ 小松峻大 議員、19 番 すがわらゆうだい 菅原悠太 議員、20 番 ふじたじょうた 藤田城太 議員

〔提案要旨〕

秋田県や横手市は人口減少が深刻化しており、特に若者が都会に移り住み、少子高齢化が進んでいる。横手市をもっと活気あふれる街にするためには、人口流出を食い止めることが重要であり、多くの人に「横手を訪問したい、住んでみたい」と思ってもらふことや、住民がこれからも住み続けたいと思えるような魅力的なイベントを行うことも不可欠だと考える。以上のことから、「旧十文字第一小学校とその周辺エリアの利活用」を提案する。この提案に当たり、令和 2 年度に横手市が「サウンディング型市場調査」を行った結果、校舎を解体して事業展開をするという提案があったことから、校舎も含めた周辺エリアの整備、活用方法として次の 2 点を提案する。

1. 宿泊施設やイベントスペースとしての整備

十文字駅やインターチェンジから近く、道の駅に隣接していることから、交通の便がよく、公共施設などが集まっているという利点を生かし、宿泊施設やイベントスペースとして整備する。この整備により、観光客の滞在拠点になることが期待でき、十文字映画祭が開催された際は多くの人々が立ち寄れるイベント会場とするなどの活用が見込まれる。また、十文字を横手の南の拠点として、人を呼び込むことで一層のにぎわいが期待できると考える。

2. 市民が集う「副拠点」として交流スペースを整備し、イベントを行う

周辺エリアの一角に十文字コミュニティセンターが建設され、市民が集い、交流できるスポットとしての活用が広がっていることから、コミュニティセンターとともに校舎を市民が集う「副拠点」として交流スペースを整備し、イベントを行う。幅広い年齢層の人が楽しめるイベントの実施は、住み続けたいと思える横手につながり、十文字和紙を使った製作教室の実施により若い世代が伝統文化を知り伝えていくことにもつながる。また、子どもから大人まで親しみやすい校舎をともに活用することで広いスペースを確保でき、幅広い年代の方々が集いやすくなると考える。

Y 8 提案第 3 号

横手を健康寿命県内ナンバー 1 にするための政策について

横手北中学校から次のとおり政策提案する。

令和 4 年 1 1 月 1 0 日 提出

横手市中学校 Y 8 サミット



横手北中学校

〔提案説明者〕

2 番 ^{おばらしょうけい} 小原正 慧 議員、8 番 ^{さいとうあきと} 齊藤彬斗 議員、9 番 ^{たかむらあきね} 高村秋音 議員

〔提案要旨〕

少子高齢化が大きな問題となっているが、年を重ねても楽しく、健康に過ごすことができる環境づくりが大切であると考え、「横手を健康寿命県内ナンバー 1 にするための政策」を提案する。現在、横手市の高齢化率は約 40%であり、高齢者の健康を維持、増進していくことは必要不可欠である。運動を若い世代と共に行うことで、楽しく健康増進につなげることができ、また若い世代にとっても高齢者とのふれあいを通してふるさと横手の魅力の再発見につながり、さらにはこの交流が持続可能な社会の形成の一助になると考え、次の 2 つの取組みを提案する。

1. 「横手市『ラジオ体操』チャレンジデー」の実施

小学生がラジオ体操を行う夏休み期間中に、町内の住民が誰でも参加できる「朝のラジオ体操チャレンジデー」を設定する。ポスターを作成して周知し、多くの人に参加してもらえるようにする。また、事前に各町内で目標参加率を設定し、実際の参加率と比較することで、運動を習慣付けるきっかけづくりとなり、幅広い世代と楽しみながら健康を増進できる人が増えればよいと考えた。

2. 各町内の「健康の駅」の環境整備

高齢者の健康増進を図るという視点で、自宅から足を運びやすい小・中規模駅での活動も充実させるため、次の取組みを行ってはどうか。

- ①いきいきサロンと健康の駅がタイアップし、カードゲームや今話題の e スポーツを若者が高齢者に教えるなど、高齢者と若い世代が交流できる機会を設ける。
- ②健康らくらく体操の動画でトレーナーが不在でも体操ができる環境を整備する。
- ③1 回利用するごとに 1 つスタンプを押せるカードを作り、10 個たまると大規模駅の無料利用券と引き換えることができる特典を準備する。
- ④小・中学生や親子が使える運動器具を設置する。

Y 8 提案第 4 号

ふるさと納税返礼品を使った横手の P R と観光優待について

横手明峰中学校から次のとおり政策提案する。

令和 4 年 1 1 月 1 0 日 提出

横手市中学校 Y 8 サミット



横手明峰中学校

〔提案説明者〕

21 番 ^{くろさわそう}黒澤壮 議員、22 番 ^{おおやしきりく}大屋敷凜久 議員、23 番 ^{さとうしらね}佐藤白峰 議員

〔提案要旨〕

私たちの中学校周辺は、夜は真っ暗、冬は大雪で通学に苦勞するなどネガティブなイメージがあるが、横手には自然豊かで四季折々の姿があり、全国に誇れる特産品、歴史的文化財、伝統的行事などがたくさんある。さらに働く人は仕事や横手に誇りを持っていることが分かり、「横手ならではの」のものと横手で働く人の思いを生かし、ふるさと納税返礼品の視点から地域の活性化を図りたいと考え、次の 2 点を提案する。

1. ふるさと納税返礼品による横手の P R

ふるさと納税返礼品（お米、りんご、横手やきそばなど）の充実を図り、定期便にしてはどうか。横手の特産品が季節ごとの旬な時期に届くことで、1 年中横手を楽しむことができ、横手の P R にもなる。また、パッケージに商品の説明だけでなく、横手の風景動画や生産者の収穫シーンなどの Q R コードを貼り付けることにより、バーチャル旅行的に横手に行った気分になりながら返礼品を楽しむことができ、実際に横手に来たい人が増えると考え。さらに、中学生が特産品を紹介するカードを入れることもよい P R になると考える。

2. ふるさと納税返礼品で横手観光の優待をする

①観光ツアーの参加料の優待

収穫体験・食べ放題ツアーや増田の蔵巡りツアー、かまくらツアーなどの横手の食や歴史的文化財、伝統的行事を生かしたツアーや、スポーツ立市を掲げ、新体育館が建設されることから「よこてシティハーフマラソン」や各種プロスポーツの試合などの参加・観戦ツアーが考えられる。横手の食やスポーツを格安で楽しんでもらえるツアーは多くの人にとって魅力的ではないか。

②横手で使える優待券の発行

横手の店、観光地などで使える優待券を付ける。「横手お買い物パスポート」と名付けて、1 DAY パスポートだと 5 % オフ、2 DAY だと 10 % オフ、3 DAY だと 15 % オフと滞在時間が長いほどお得な優待券を発行する。また、キャッシュレスの「J ENKO」と名付けた電子感謝券を渡すこともできると思う。優待券により、横手での観光や買い物が非常にお得になり、横手に来きたい人が増えると考え。

Y 8 提案第 5 号

若年層の流出防止を目指す天下森リゾート計画について

増田中学校から次のとおり政策提案する。

令和 4 年 1 1 月 1 0 日 提出

横手市中学校 Y 8 サミット



増田中学校

〔提案説明者〕

5 番 くろさかしょうた 黒坂翔汰 議員、6 番 おの で り ゆ う せい 小野寺琉晟 議員、7 番 たかはし ゆ い 高橋優衣 議員

〔提案要旨〕

少子高齢化に伴う人口減少の背景には、若者の県外流出も大きな要因となっていることから、若年層の流出防止に着目し、横手市に暮らす若者がワクワクし、県外に一度出た人もいずれは帰ってきたいと思える魅力ある市にするための特色が必要と考えた。既存の自然環境を生かした天下森エリアの再開発を通して、多くの人が年間を通じて余暇、レジャーを楽しむ場を創出することで、若年層の流出を防ぎ、子育て世代などが生き生きと暮らせる横手市にするために「天下森スキー場等整備計画」をもとに次の政策を提案する。

1. 「エクストリームスポーツ、通称 X スポーツ」を取り入れた天下森リゾート計画

天下森の自然環境を生かしたトレイルランニング、山間を走り抜けるモトクロスバイクやバギー、マウンテンバイクのコース、さらには BMX やスケートボードを楽しめるパークを整備することで、スキー場の夏季の利用、集客の促進を図る計画である。キャンプ場の整備に伴い、X スポーツ愛好家をはじめ、多くの人がウィズコロナのニーズを満たすアウトドアライフを、滞在型のスタイルで満喫できると考える。改修が求められる「釣りキチ三平の里」体験学習館における浴室、シャワーブース等の充実も欠かせないものと思われ、冬季にはスキー場の目玉として、X スポーツをアピールするスノーボードパークやハーフパイプの整備も注目すべきポイントになる。

また、「X スポーツと言えば増田・天下森」を PR することにより、増田の蔵、まんが美術館との一体的な観光の促進、集客も望め、地域の活性化につながる事が期待できる。将来的に X スポーツの大会、競技会等の開催・誘致につながれば、増田の名前がさらに広まり、若年のみならず、あらゆる世代が楽しめる「天下森リゾート」を生み出すことで、魅力ある横手市、生き生きと楽しめる横手市に近づけるのではないかと。

Y 8 提案第 6 号

「横手の魅力を伝えるストーリーコンテスト」の設立について

横手清陵学院中学校から次のとおり政策提案する。

令和 4 年 1 1 月 1 0 日 提出

横手市中学校 Y 8 サミット



横手清陵学院中学校

〔提案説明者〕

15 番 ^{おおた ひ ろ}太田陽朗 議員、16 番 ^{すがわら ゆ き な}菅原薫奈 議員、17 番 ^{さいとう み ひろ}齋藤美尋 議員

〔提案要旨〕

当初、「アニメで横手を活性化する政策」を考えた。観光客増加やアニメに取り上げられることで市民も自分たちの街に誇りをもつことで活性化につながり、さらに市の「マンガ活用構想」を発展させるものと考えた。しかし、アニメ制作には多くの工程、人材、費用などが必要であることが分かり、横手の活性化を図りながら、アニメ制作を実現に近づけていくため、「横手の魅力を伝えるストーリーコンテスト」の設立を提案する。

1. コンテストの内容等

- ①応募条件 作品中に横手市が登場し、横手の魅力が伝わること。
- ②審査員 横手在住の方、横手出身の漫画家、声優、横手に縁のある文化人など。
- ③受賞作品 大賞には賞金を授与するとともに、作品を書籍化し、市立図書館や小・中学校図書室へ配架する。図書館には「横手の魅力を伝えるストーリーコンテスト」の特設コーナーをつくり、作中の横手市が登場する一場面をマンガやアニメのイラストと共にパネル化し展示する。また、小・中学校では読書の時間や授業等での活用や「横手の魅力を伝えるストーリー感想文コンクール」を開催し、広報等では作中の台詞を活用できると考える。

2. 効果

- ①住民は、気付かなかった横手の魅力を知ることや、小説の舞台に横手が登場することで市民一人一人が主役の意識をもつことができ、横手をもっと好きになる。
- ②市外の方は、ストーリーを考えるために取材に訪れ、横手の街や文化に興味をもつ。また、ストーリーを読むことで、観光に訪れる人もいるのではないかと考え、交流人口が増えるという効果がある。

Y 8 提案第 7 号

職業体験マッチングアプリの開発について

平鹿中学校から次のとおり政策提案する。

令和 4 年 1 1 月 1 0 日 提出

横手市中学校 Y 8 サミット



平鹿中学校

〔提案説明者〕

3 番 ^{きむらけいと}木村京都 議員、10 番 ^{にいやまたいが}新山大雅 議員、11 番 ^{すずきあみ}鈴木愛望 議員

〔提案要旨〕

横手市の人口は年々減少し、若者が仕事を求めて都会に出ていく現状があるが、大都市に比べ働く場所は少なくても、魅力的な企業やふるさと横手に貢献している職業はたくさんある。このような様々な企業を多くの人に知ってもらい、子どもの頃から職業により関心を持ち、横手市で活躍する人材の育成につなげるため、「職業体験マッチングアプリ」の開発を提案する。

1. アプリの仕組みについて

若者が自ら職業体験の予約ができ、企業は自社に興味関心の高い若者を探すことができる。各企業はアプリを通じて「日時」、「受け入れ可能人数」、「体験内容」等を P R し、それを見て個人が申し込みを行い、実際に働く体験ができるというもの。

2. アプリの効果について

- ①秋田県の就職 3 年後の離職率は高卒者で 38.8%、大卒者で 36.6%と高く、就職を希望する個人と企業のミスマッチングを防ぐことができる。
- ②若者が横手市の魅力的な企業について詳しく知ることができ、企業にとっても就職前に仕事内容を知ってもらうチャンスになる。
- ③アプリの活用により小中高一貫して地元の企業について学ぶことができ、子どもの頃から「横手で働き、横手で暮らす」イメージをもつことで、将来、横手市で活躍する人材の確保、育成につながる。

3. アプリの開発費用、宣伝方法について

すでに出回っている無料アプリ使用により費用を抑えることができる。スマホやタブレット一つで「24 時間×365 日×どこからでも」様々な行政サービスが受けられるという取組みをしている自治体は増えており、「横手市デジタル推進計画」で行うサービスとタイアップし、職業体験の情報も得ることができるようになれば、よりアプリを利用してもらえと考える。また、宣伝方法は、メディアの活用と S N S などを使って自身の体験を発信することを考えており、さらに認知度が広がることを期待している。